

# TUAD IS HERE

WEB

日常の中の芸工大。

低炭素社会に向けた、  
 未来の住宅構想「山形エコハウス」  
 環境省が募集した、二酸化炭素排出量を削減し、環境負荷を抑えた快適な暮らしを実現する「21世紀環境共生モデル住宅の整備事業」で、全国20事例のひとつに選ばれた「山形エコハウス」。東北芸術工科大学は、建築・環境デザイン学科が中心となり設計段階からアドバイザーとして参画しています。設計を担当したのは、羽田設計事務所の金子裕司さん。「芸工大大学院のOB」ということでもあって設計を任せられ、とても嬉しく感じます。「山形エコハウスは、断熱材の厚さが300mmもあることや気密シートの徹底的な施工などが、最高水準の環境共生型住宅を表現しています。車庫にまで快適さを認じてもらうのが一番ですが、まずは見ていただきたい環境に配慮した住宅への意識と関心が高まれば」と語る金子さん。山形の移り渡りを使いローカルな土地環境にも対応した、地球にやさしい住宅を是非ご覧ください。

WEB: <http://ecohouse.exblog.jp/>  
 ©山形エコハウス 一般見学時間  
 10:00-16:00  
 平日・第3土曜日(日・祝日除く)

## 表紙のART

WEB



2009年度の卒展テーマであり、卒展プライズにも輝いた「結」

モノづくりには欠かせない人による結び目。卒業運営委員でもあったグラフィックデザインコースの小谷拓矢さんは、この案が卒業ポスターに採用されたことを機に卒業制作として完成度を高めていくことにしました。全14学科、14人の手で作り上げた「結」の文字。人を巻き込んだ撮影や、その光景をビデオに取めたパフォーマンス性も含めて評価を受けて卒業プライズに。自身の作品でありながら、卒業テーマとして周囲の意向もみ入れなければならないジレンマ。それが人の意見やアイデアを受け入れ調整する、いい勉強になったといいます。

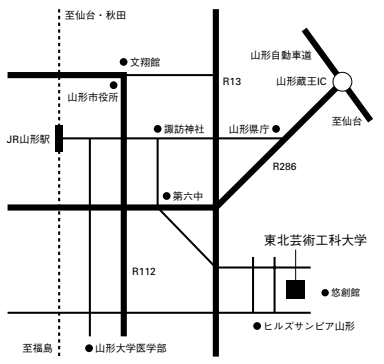
## 「g\*g」とは?

芸工大報誌のタイトルは「g\*g」。最初の「g」は芸工大のgであり、もう一つの「g」は芸術市民のg。文化的志向を持つ皆さんを「芸術市民」と名付けました。あの絵が好き! このデザインがこい! 景観がきれい! こんな風に日常の中で感動できる人は立派な芸術市民。そんな芸術市民のみならず芸工大が、「+」より強い「\*」で結ばれることで、新しい何かを創り上げていきたい、そんな思いを込めて「g\*g」。親しみを込めて「ジー・ジー」と呼んでください。広報室では、「g\*g」を置いてくれるショップやギャラリーなどを随時募集中です。

## 東北芸術工科大学

- ◎芸術学部
  - 美術史・文化財保存修復学科
  - 歴史遺産学科
  - 美術科[総合美術/日本画/洋画/版画/彫刻/工芸(漆芸・陶芸・金工)/テキスタイル]
- ◎デザイン工学部
  - 企画構想学科
  - プロダクトデザイン学科
  - 建築・環境デザイン学科
  - グラフィックデザイン学科
  - 映像学科
  - メディア・コンテンツデザイン学科
- ◎大学院芸術工学研究科
  - 博士後期課程 芸術工学専攻
  - 修士課程 [芸術文化専攻/デザイン工学専攻/デザイン工学専攻 仙台スクール]
- ◎研究機関
  - 総合研究センター/東北文化研究センター/文化財保存修復研究センター/こども芸術教育研究センター/デザイン哲学研究所/東アジア芸術文化研究所/社会芸術総合研究所

## ACCESS



## 東北芸術工科大学広報誌 g\*g

2010年4月19日発行  
 発行:学校法人東北芸術工科大学  
 〒990-9530 山形市上桜田3-4-5  
 東北芸術工科大学広報室  
 TEL: 023-627-2246 FAX: 023-627-2185  
 WEB: [www.tuad.ac.jp](http://www.tuad.ac.jp)  
 E-mail: [hello-gg@aga.tuad.ac.jp](mailto:hello-gg@aga.tuad.ac.jp)

Design: JEYONE  
 Printing: Tamiya Printing co., Ltd.

©東北芸術工科大学 Printed in Japan 2010

芸術市民といっしょに創る芸工大広報誌



[ジー・ジー] 2010 SPRING VOL.13  
 東北芸術工科大学



TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN



# 普段の暮らしにアートを加えると、 心が豊かに、日常がワクワクしたものになる。

## 今、大人がアートを芸工大で学ぶ意味

「東北芸術工科大学：芸工大のある街」。  
このことを、皆さんの日常の素晴らしさにつなげたい。

成熟した現代社会では、人々は物質的な欲求から精神的な欲求へと、満足の価値を新しい次元に求めはじめています。そして私たちの日常生活の中に見いだされる心の豊かさを欲しているはずです。その手段のひとつが、アートや文化的志向を自らの生活に取り込んでいくことだと思います。日々の感動が増えていくことで、仕事の充実感や、暮しの満足度は高まっていくのです。芸工大では2010年の夏から、山形や東京などで、全世代を対象とした本格的な生涯芸術教育を展開します。ここで提案するのは、「豊かな日常が感動につながる、学びの場が側にある暮らし」です。芸工大ならではの、他にはない学びの場を提供していく計画です。また、芸工大は地域に開かれた大学を目指して、

来年で開学20周年を迎えます。この時期に、より芸工大の学習環境を地域の方へ積極的に提供することで、地域との結びつきを一層強くなりたい、とも考えています。芸工大がある街で、皆さんの学びの欲求に合わせた深い学習をしていただく。そして、そこで知り合う人同士での感動をわかちあひながら、日常の素晴らしさを実感してもらえれば、嬉しい限りです。

——— 東北芸術工科大学学長 松本哲男

松本哲男 Matsumoto Tetsuo  
1943年栃木県生まれ。宇都宮大学教育学部卒、日本画家塚原哲夫氏に師事。東北芸術工科大学学長、日本美術院評議員、72年日本美術院院友に推挙される。今野忠一氏に師事する。主な受賞に、74年再興第59回院展で日本美術院賞・大観賞、日本美術院特待、83年日本美術院同人、84年芸術選奨文部大臣新人賞、89年再興第74回院展文部大臣賞、93年再興第78回院展内閣総理大臣賞、94年栃木県文化功労賞など。



## 芸工大の〈社会人・生涯学習事業〉の学びのカテゴリー

2010年夏以降スタート予定の、社会人・生涯学習事業では複数の学びのカテゴリーを展開。それにこれまで開講していた公開講座の漁期も拡張し、さまざまな学びの入口で皆さんの必要に応えます。次年度以降も徐々に科目などを追加し、より充実した生涯学習の場をご提供する計画です。



### 科目群から私の目的で選ぶ 〔山形〕

平日昼間の、芸工大生が受講している100科目以上の正規の授業科目の中から、個人の関心や興味、レベルで自由に組み合わせて、必要な授業を受講することができるプログラムです。「美術作品鑑賞、特に西洋美術が趣味だけれど、もっと新しい楽しみ方を見つけない」、「地球環境について考え、所属するNPO活動に役立てたい」などの動機に合致する授業の組み合わせを、芸工大の履修アドバイザー「履修コンシェルジュ」とともに相談して、受講します。



### 地域と結ぶ豊かなアート体験 〔東北〕

短期集中型のプログラムで、ひとつのテーマを多角的に体験学習することで、本格的な教養や感性を身につけることを目指します。日常生活を形成するカギとなる要素や、近未来で注目される文化的側面などをテーマに取り上げ、本学の教授陣とゲスト講師に依る2～3日間の短期間のプログラムを通じて、他では得られない芸術・文化体験の場をご提供します。東北の文化や地場産業、地産地消など、地域風土を活かしたテーマも予定しています。また、少人数制の講座ならではの受講生同士のつながりを得られるでしょう。



### 東京で学ぶ芸術と企画の力 〔東京〕

東京の外苑に、新しい学びの拠点を設置。姉妹校の京都造形芸術大学と共同で取り組む事業では、日本文化や生活文化の探求と発信を教育の軸に置いた講座を設定します。また、本学独自の取り組みとして、創造的な考え方をもち「クリエイティブセンス」と、社会構造を理解し仕事を進める「ビジネスセンス」をバランスよく備えた人材を養成する、新しいビジネス「塾」を開講。他とは一線を画す、高水準で高密度な講座を通じて、プロフェッショナルとしてのキャリアアップに繋げる塾となります。

※右のQRコードからご意見や学びたい分野をお聞かせください。講座運営の参考にさせていただきます。



最近、新しい分野に挑戦しようと思ってるの、始める前から仕事や生活がイキイキしています。

# Art

芸術や文化を日常に加えると、きっと心を豊かにし、人生に潤いを与えてくれるはずです。  
この夏開学の「大人のための芸工大」では、アートを身近に感じたい、もっと深く文化を学びたい、そんな皆さんの普段の感性をお待ちしています。  
東北・山形の大自然が、キャンパスです。

人生に、アートを。

子どもの頃から、自分だけの時間をもてました。それから、大学でもう一度、学び直してみようと思ってきました。

# 大人のための芸工大、2010年夏開学

アートを学ぶ。アートを活かす。  
社会人・生涯学習事業



芸工大 \* 文芸学科



文芸学科教授陣に就任予定の6名。左から、中森明夫、山川健一、川西蘭、石川忠司、斎藤潤、藤原千尋。

INTERVIEW

### 表現と編集を学ぶ、最良の場所に。

2011年度より芸術学部に新設される「文芸学科」。その学科長を務めることになった山川健一氏は、作家にしてロックミュージシャン。個性派揃いの芸工大教員陣の中にあってもひととき異彩を放つ存在となりそうです。
※文芸学科は、2011年度設置届認可申請中です。

2011年度より芸術学部に新設予定の「文芸学科」。その学科長に就任予定の山川健一氏は、アメーバブックス新社編集長で、作家にしてロックミュージシャン。奇しくも山川氏が縄文の面影を求めて、屋久島、奄美大島といった南の島々を巡る島旅をしていたタイミングで、縄文文化が色濃く残る東北山形での新学科設立。不思議な縁を感じたはず。山川氏は、「文芸学科は文学部ではないので、必ずしも夏目漱石や森鴎外を読まなくても、ドイツ文学やフランス文学を学ばなくてもいい。学生たちには、もっと違う分野の知性的な刺激を吸収しながら、何か新しい面白いことをやってもらいたい。その中から若い書き手や編集者を続々と育成していきたい」と、文学部における文芸ではなく、

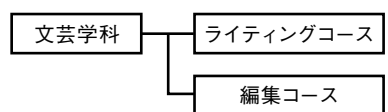
芸大にある文芸系の学科であることを強調し、意気込みを語っています。「蔵王に登ったり、大失恋をしたり、環境破壊に胸を痛めたり、そういう何かのきっかけが文芸を生み、作品に繋がる。その一人ひとり異なるきっかけが訪れた時に、作品化できる深い思考と高いスキルを文芸学科で身につけてほしいと考えています」。それらの経験から、小説家やエッセイスト、編集者やライターばかりではなく、一般企業や地方自治体などでも活躍できる日本語表現のスペシャリストを養成します。さらに、山川氏は「ここ山形の地で学ぶことにも大きな意義を感じる」そうです。「出羽三山と蔵王の山々に抱かれ、自然に対する敬愛や畏敬の念に満ちた山形は、小説なり、ファンタジーなり、詩なりを世界に向

けて発信していくに相応しい場所だと思うんです。キャンパスには文芸系とは対照的にとても直感的な美術科の学生アーティストや、デザインを学ぶ学生たちとの交流の機会があふれており、互いに刺激し、影響し合える素晴らしい環境にあるということも大きな特長です」。ここでなら、バラバラになってしまった芸術、科学知、宗教知などを言語、文学の力によって統合・再編し新しい価値を生み出していけるのではないかと、山川氏自身も大きな期待を抱いています。混迷するいまの時代にこそ「文芸、文学の力を信じて、より実践的に表現と編集を学びたいと思う若者たちにとっては、最良の場所にできると考えています」。
文芸学科 WEB: www.tuad.ac.jp/la/

### ●文芸学科の特色

文芸学科は、(株)幻冬舎、(株)サイバーエージェント及び(株)アメーバブックス新社などと開設時から連携することで、より実践的なカリキュラムを設定します。演習を通じて、3・4年次には学生が文芸雑誌の刊行を行う力を身につけます。

### ●「書く」と「編集」の2つのコース



〈ライティングコース〉
自分の特性を見極め、小説、ミステリー、ファンタジー、ノンフィクション、紀行文など、卒業までに長編作品を執筆できる力を身につけます。そして、実際に作家としてデビューするノウハウを学びます。

〈編集コース〉
企画立案、原稿校正など、実際の編集技術を学ぶと同時に、パソコンの編集ソフト(DTP)や、WEBサイト制作ソフトをマスターします。長期休暇には、インターンシップとして出版社での仕事も経験し、編集者としての力を習得します。

### 見城徹氏や藤田晋氏が学科顧問に

日本の出版大手 株式会社幻冬舎代表取締役社長の見城徹氏や、株式会社サイバーエージェント代表取締役社長の藤田晋氏が学科顧問として就任。さらに『春一番が吹くまで』などを執筆した作家の川西蘭氏、『島を見ていた』などを手がける旅行作家の高藤潤氏など、現役作家が教授として学生をサポートします。



### アメーバブログと芸工大がコラボ

アメーバブログと東北芸術工科大学がコラボレート。文芸学科設置に向けて、様々な情報をお届けするブログ「文芸物語」が、2010年2月10日にスタートしました。日々の出来事やお知らせをアップするのは、山川健一氏をはじめとする教員就任予定の作家や編集者。ブログから発信される言葉に、注目ください。



### 東北芸術工科大学 卒業 / 修了研究・制作展 WEB

## 卒展の時間、空間、それらすべてが彼らの作品。

学生生活の集大成、卒業 / 修了研究・制作展。今年もキャンパス全体を会場に卒業生・修了生544名の作品や研究パネルを展示するとともに、多彩なイベントを開催しました。各学科の優秀作品の中から審査委員により優秀賞〈卒展プライズ〉7点が選出され、受賞者には宮島達男副学長デザインの、オリジナルトロフィーが贈呈されました。ここでは、その中の3点を審査委員の講評とともに紹介します。



●酒井忠康(世田谷美術館館長) / この作品を目の前にしたとき、作品を見たというよりこの作品を描いた近藤さんがそばにいる、絵の中からひょっこり出てきた、そんな感覚を覚えました。行き詰まったときには素直にキャンパスの中にスッと溶け込んでみるのもいい。実に創造力が感じられる作品です。

「自分が魂を込めて描けるのかを試すいい機会になった。」

近藤亜樹(美術科洋画コース)

馬を撃つ→鉄砲→ベリ→黒船……。そんな連想ゲームのようなストーリーが展開されている不思議な作品『ひのものと国』。絵を描くことがコンプレックスで、大学に入ってからキャンパスに向かって絵を描くことがほとんどなかったという近藤さんが、今後を占う賭けのような気持ちで向き合った作品です。一時は、立体的な作品やインスタレーションに取り組んでみたこともありましたが、それでもやはり「自分が目指す表現は絵画」という強い思いから、卒業制作は思い切って巨大キャンパスに、自分が生まれ育った日本を描くことにしたのです。この作品を描き上げたことで、受賞の喜び以上に、「私、絵を描いていいんだ」と自分の立ち位置の再確認になったといいます。



●宮島達男(現代美術家・本学副学長) / この作品は、企画プレゼン部門ではダントツでした。芸術系大学にあって「農」がテーマというのもおもしろいし、時代性にも合っています。調査・聞き取りも丁寧に行われていて、それでいて「農人」としての作り込みもかなりしっかりしていて魅力的です。

「無縁だった農業を知ることで自分に新たな風を入れたかった」

菱彩香(メディア・コンテンツデザイン学科情報計画コース)

菱さんは、派手なもの、華やかなものへの憧れが強く、農林漁業にはまったく緑も興味もありませんでした。ところが、最近、テレビや書店で「農」の文字を目にする機会が増えて少しずつ気になり始めていました。芸術系の大学で学んでいるため就職活動においても決して触れることのない農の世界。今触れなければ生涯農業に関わることはないかもしれない、そんな思いから「農人」を卒業制作のテーマに。農林漁業に携わる6人を取材することで、生産者も熱心だったリクルだったり様々であることを知りました。中でも都会でサラリーマン等を経て就農した人ほど農業に熱いと感じたそうです。東京に就職する菱さんですが、数年後には地元に戻り、地域貢献したいとの事でした。



●マエキタミヤコ(サステナ代表) / モノを作らないことに対する審査員の評価は賛否両論。プロダクトの仲間たちが着々と卒業制作を進めていく中で、半年かけて自分の私物を黙々と掘り貯めて整理していく作業、素直でありながら根拠が産んでいるというか、本質を見つめている感じが私はスゴイと思いました。

「プロダクトの視点でモノではなく仕組みを作りたい」

管野一葉(プロダクトデザイン学科)

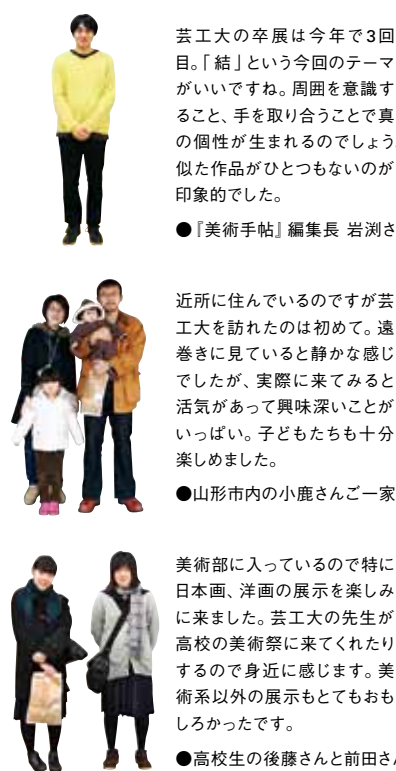
今回から設けられた学外審査委員賞、今年度はマエキタミヤコ賞として管野さんの「私のもちものから考えるプロダクトデザイン」が選ばれました。管野さん自身が半年間で買求めた1753点ものアイテムを撮影・記録し、整然と並べてパネルと本に仕上げられています。プロダクトデザインを学びながらも敢えて作らない道を選択。「作る人はたくさんいるから、自分のようなやり方でプロダクトを支える人間がいなくてもいいのでは」というのが彼女の考え方。この卒業制作もモノを作る前段階の資料として活かしてほしいと考えたのです。4年次には「リアカー八百屋」で規格外の野菜の販売に取り組みだともあり、プロダクト視点で諸問題の解決を図る仕組みづくりが得意のようです。

さまざまな結びつきから感動が生まれた卒展2009



2月9日から14日まで6日間にわたって開催された東北芸術工科大学卒業 / 修了研究・制作展。2009年度学生卒展運営委員会のメンバーが中心となってさまざまなイベントやプレゼンテーション、パフォーマンスで卒展を盛り上げました。今年のテーマは「結 YUI / KETSU / MUSUBU」。学生たちによる「手」の結び目は、ポスターをはじめとする印刷物のデザインとしてだけでなく、全展示会場に掲げるシンボルにもなりました。オープニングイベントとしての和太鼓祝奏で幕を開け、卒展プライズの表彰に引き続き開催された「卒展」にアートとデザインの未来を探すと題しての記念特別講義、教員による公開講評会、上條喬久氏を講師に迎えてのゲストトーク、ギャラリートークなど盛りだくさんのプログラム。そして、最終日がボランティアデーということでもそれにちなんでチョコレートでのクローキングパーティーと、恒例の学部対抗綱引きで豪快に幕を閉じました。

### 美術誌の編集長をはじめ、たくさんの人々が訪れた卒展。その笑顔と感想を現場リポート。



●「美術手帖」編集長 岩河さん
芸工大の卒展は今年で3回目。「結」という今回のテーマがいいですね。周囲を意識すること、手を取り合うことで真の個性が生まれるのでしょうか。似た作品がひとつもないのが印象的でした。

●山形市内の小鹿さんご一家
近所に住んでいるのですが芸工大を訪れたのは初めて。遠巻きに見ていると静かな感じがして、実際に来てみると活気があって興味深いことがいっぱい。子どもたちも十分楽しめました。

●美術部に入っているのに日本画、洋画の展示楽しみに来ました。芸工大の先生が高校の美術祭に来てくれたりするの身近に感じます。美術祭以外の展示でもとても楽しかったです。
●高校生の後藤さんと前田さん

PICK UP



# TUAD NEWS 31

目で見える芸工大「できごと」セクション

## 01



### 今後に更なる期待、平成21年度東北芸術工科大学学長奨励賞受賞決定

東北芸術工科大学学長奨励賞は、優秀な成績を取めたり社会的に貢献し、顕著な社会活動を行ったなどの秀でた学生または団体を表彰する制度です。このたび下記のとおり受賞者を決定いたしました。学年は、受賞時のものです。

学長奨励賞及び奨励金（個人5万円、団体10万円）  
 ◎個人の部（5名）：竹原優（美術科4年）写真新世紀2009佳作／山口裕子（美術科4年）臥龍桜日本画大賞展大賞等／佐藤友里衣（グラフィックデザインコース4年）第一回Be 絵本大賞／黒宮亮介（修士1年）京展賞受賞／藤沢恵（修士2年）二科展彫刻の部特選受賞  
 ◎団体の部（2団体）：デザイナーズウィーク2009（代表：細谷将右）東京デザイナーズウィーク大学賞及び学生優秀賞／メディア・コンテンツデザイン学科3年有志（代表：福田慧介）マダム学生CMコンテスト・キャラクター賞受賞

## 02



### 国際的なイベントとの連携で話題と注目を集めた「I'm here. APT」

将来の活躍が期待される卒業生アーティストを紹介する「I'm here.」では、今年度は山形市内の旅館跡で居住一体形のアトスベースの設立に着手したグループ「ミサワクラス」に注目。2009年秋、山形国際ドキュメンタリー映画祭と連携し、映画関係者のための宿泊所として10年間放置されていた空きビルをリノベーションした「アジアハウス」で、「シェア・アトリエ」（共同アトリエ）を提案する展覧会を2月6日～14日に開催しました。アジアハウスの5フロアに、メンバーの作品をそれぞれ展示。また開期中には地域住民との交流パーティーを行い、地元・山形の食材を駆使したミサワクラス流の「食べべるアート」も発表しました。アーティスト：ミサワクラス／後藤拓朗／望月梨絵 協力：ヤマガタR不動産リミテッド／株式会社三共 後援：東北芸術工科大学卒業生後援会・校友会

## 15



### 前田哲／映像学科准教授の監督作品 話題の映画「猿ロック」ロードショー

前田哲映像学科准教授が監督した「猿ロック THE MOVIE」が2010年2月27日よりソラリスにてロードショー。天才銀師、サルと猿九郎太郎（市原隼人）が事件にまきこまれてくりひろげていくアクション満載のオリジナル脚本でさらにパワーアップした映画となっています。また2008年に監督した映画「ブタがいた教室」が、「TSUTAYA」が選んだ。世界が選んだ。（イベント期間2009年12月4日～2010年2月21日）100選に選出されました。 WEB: http://saru-movie.jp/ WEB: http://www.tsutaya.co.jp/tc/getsuji/

## 19

### これからの更なる活躍に期待とよた美術展2010に入選

将来の活躍が期待される芸術家の発掘や芸術文化の向上を図る目的で、全国から作品を3年に一度募集する「とよた美術展」が2月6日～28日に開催され、大学院洋画領域修了の保坂昭昭さんの作品「発動」が入選し、豊田市美術館にて展示されました。



### 神社界が提案する新しい神棚として 本学副手の作品「いのり301」が商品化

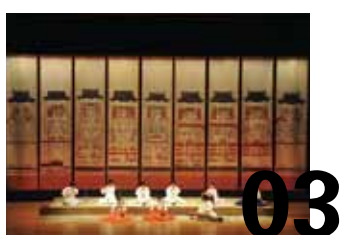
現代の住宅状況に届けたい新しい神棚を公募した「未来の神だなデザインコンテスト」で、281通の応募の中から8点が入賞作品として選ばれ、プロダクトデザイン学科副手で大学院修了生の大道寺怜奈さんの作品「いのり301」が商品化されました。神社関係者に加え、サラリーマンや建築関係者等の一般の方々なども審査に加わり、独特な存在感とシンプルな形が様々なまつり方を工夫することができるとして採用されました。仕様本体：W280×H280×D80mm 重量1.2kg ガラス部分：すりガラス仕様（飛散防止シート貼） WEB: https://www.saitama-jinjacho.or.jp/

## 27



### 公募展「ワンダーシード2010」に日本画コース生が連続入選を果たす

若手アーティストの活動支援を目的として入選作品の販売を行うユニークな公募の展覧会「ワンダーシード2010」が3月6日～20日にトーキョーワンダーサイト渋谷にて開催され、日本画コース3年の内海真佐子さんが昨年度の「ワンダーシード2009」と2年続けての入選を果たしました。 WEB: http://www.tokyo-ws.org/index.html



## 03

### 美しい宮廷音楽に600名が感動 国立韓国藝術総合学校招待公演

若者をどう教育を進めていくか、日韓の文化交流を通じて考える場として、交流協定校の国立韓国藝術総合学校の方を招待し「韓国伝統の楽・歌・舞－宮廷の伝統舞踊と音楽－」を1月13日に山形市中央公民館ホールにて開催しました。約600人の観客が訪れ、満員の会場に美しい韓国宮廷音楽が響き渡りました。



## 06

### 第34回全国大学版画展にて美術館収蔵賞を4名が受賞する好成績

全国の美術大学、美術系学部、専門学校等、約70校が各校の教育成果を発表する展覧会が2009年12月5日～20日に町田市立国際版画美術館にて開催されました。65校の参加、255点が出品されたうち31点が美術館収蔵賞に選出され、本学からは4名が受賞しました。受賞者：齋藤修（大学院洋画領域2年）／野瀬昌樹（洋画コース4年）／島谷部恵理子（洋画コース4年）／西村沙由里（洋画コース3年）



## 09

### 第11回雪楽舎フィレンツェ賞展で優秀賞を受賞！開かれた芸術家への道

日本画コース卒業生の高橋はるかさんの作品「よあけまえ」が「第11回雪楽舎フィレンツェ賞展」にて優秀賞を受賞。2009年12月9日～14日に受賞作品が東京都美術館での展示に出品されました。同展は、ルネッサンス文化発祥の地であり世界的な芸術の都フィレンツェにちなみ、日本国で活躍する若い精鋭作家の発掘を目的として開催。フィレンツェ滞在を通して、創作活動を支援し、21世紀の芸術文化の振興と、芸術家の育成を図ることを目指す公募展です。

## 12

### 平成21年度東北芸術工科大学卒業式・修了式で530名を送り出す

平成21年度東北芸術工科大学卒業式・修了式が3月20日に通り執り行われました。今年で学部卒業15回目、大学院修士修了13回目、博士修了2回目。卒業の辞を建築・環境デザイン学科の高島万貴子さん、修士修了の辞を大田代奈穂さん、博士終了の辞を小田志保さんがそれぞれ述べ、530名の卒業・修了生がそれぞれの社会へと巣立ちました。



## 13

### 産学共創 with snow peak 確かな手応え感じた成果作品展

国内大手アウトドア用品メーカーの「株式会社スノーピーク」とプロダクトデザイン学科の産学共創の成果発表として、2009年12月15日～19日に同学科の学生が制作した約15点のプロトタイプモデルの展示を本学にて行いました。12月17日にはスノーピーク代表取締役社長 山井太氏などをお招きしてのプレゼンテーションを開催。企画立案段階からスノーピークの企業理念を体験する中で、学生たちは授業での技術向上だけでなく、多くの感動も得られたようです。学生の提案した作品のいくつかは、市販品として具体的な検討が進められています。 連携企業：株式会社スノーピーク

## 04

### 映像コース3年生が授業で実践体験「ARARE」のミュージックビデオ制作

社会とリンクレモノを作る体験を実践する授業として映像コース3年生の課題で「ARARE」のミュージックビデオを制作しました。「個人の世界観を生かしたアニメーションに音楽をのせる」という試みを体験。個人、もしくは2～3人のチームで作った作品をレコード会社へ提案しました。採用となったミュージックビデオは2009年12月16日のアルバム発売に併せて300枚限定でDVD作品集として発売。1人のアーティストに学生の6作品のミュージックビデオがつく、今までにない試みとなりました。 WEB: http://bls-act.co.jp/news/1204



## 07

### 「テーブルウェアフェスティバル2010」公募展で多数受賞し、芸工大をアピール

プロフェッショナル、アマチュアの力作が多数出品され、オリジナルデザイン部門、コーディネート部門、特別審査部門で競われる業界内最大規模の器の公募展「第18回テーブルウェア大賞～優しい食空間コンテスト～」が1月30日～2月7日に東京ドームで開催され、大学院工芸領域の修了生が多数受賞。東京ドームにて展示されました。 ◎大賞・経済産業大臣賞：木瀬浩詞（大学院修了） ◎テーブルウェア・オリジナルデザイン部門最優秀賞（プロフェッショナルクラス）：天羽慎之介（大学院修了） ◎佳作（アマチュアクラス）：牧野広大（大学院修了）／斎藤寛達（大学院修了） 主催：テーブルウェアフェスティバル実行委員会 WEB: http://www.tokyo-dome.co.jp/tableware/

## 10

### 札幌市民芸術祭美術部門にて栄えある奨励賞（準大賞）受賞の喜び

市民の芸術文化活動を応援するため、音楽・演劇・舞踊・美術・文学等の各分野の創造発表活動を取り上げ、各分野の活動の活性化を図る札幌市民芸術祭。応募者数約150人の中から版画コース3年の西村沙由里さんの作品「交錯 construct」（版画）が札幌市民芸術祭美術部門にて、奨励賞（準大賞）受賞し、12月9日～13日に札幌市民ギャラリーで展示されました。



## 11

### 選ばれし若き精鋭たちが時代を刻む「若手漆芸家による腕時計文字盤作品展」

銀座天賞堂の創業130周年記念事業として、腕時計の文字盤を漆を使って表現した作品展を、銀座天賞堂で3月26日～4月12日に開催。若手漆芸家を対象に、本学をはじめ輪島漆芸技術研究所、富山大学、金沢美術工芸大学、金沢学院大学から選抜された漆芸家が製作し入選した作品が展示されました。入選（卒業・修了生）：岡田嘉夫（作品）／熊野慶樹／齋藤寛達／末松里織／菅原明子／三浦鮎／吉富恵理子 賛助出品：水上修准教授 後援：石川県 WEB: http://www.tenshodo.co.jp/

## 13

### 産学共創 with snow peak 確かな手応え感じた成果作品展

国内大手アウトドア用品メーカーの「株式会社スノーピーク」とプロダクトデザイン学科の産学共創の成果発表として、2009年12月15日～19日に同学科の学生が制作した約15点のプロトタイプモデルの展示を本学にて行いました。12月17日にはスノーピーク代表取締役社長 山井太氏などをお招きしてのプレゼンテーションを開催。企画立案段階からスノーピークの企業理念を体験する中で、学生たちは授業での技術向上だけでなく、多くの感動も得られたようです。学生の提案した作品のいくつかは、市販品として具体的な検討が進められています。 連携企業：株式会社スノーピーク



## 05

### 「めくるめく東北」写真展朝日町編Ⅱ朝日町で開催され新鮮な魅力を放った

朝日町在住の安藤茂雄さん（59歳）が40年にわたる朝日町を写した数々の写真と、学生が東北を写した写真を配って対決させる形で構成した写真展を、1月13日～31日に朝日町エコミュージアムコアセンター創造館で開催しました。世代を超えて写し取った東北の風景が、美術科や大学院の学生によってオリジナリティあふれる表現として私たちの目に表出しました。企画・構成：内藤正敏 共催：朝日町・朝日町教育委員会

## 08

### 日向由子／非常勤講師が喜びの受賞 第22回ミュージック・ペンクラブ音楽賞

「アル・ディ・ラ～美しきイタリアン・メロディー」（及川音楽事務所）をリリースした非常勤講師の日向由子さんが、第22回ミュージック・ペンクラブ音楽賞クラシック部門ベスト・ニュー・アーティスト賞を受賞しました。 WEB: http://www.musicpenclub.com/prize22.html



## 18

### 会場を自然豊かな山形から東京に移って東北芸術工科大学卒業・修了展【東京展】

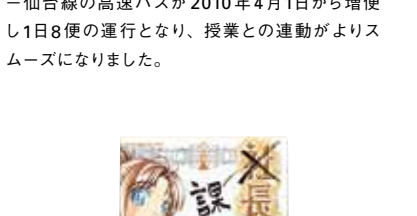
2月9日～14日に開催した15回目となる卒業・修了展。山形の西蔵王の麓にひろがるキャンパスを会場とし約600名の卒業生・修了生たちの作品が大きな反響を得ました。その芸術学部美術科の中から優秀な作品を抜選し、東京都美術館にて3月26日～4月3日に東京展を開催しました。 WEB: http://www.tobikan.jp/



## 22

### 本学出身者が見事に受賞、入選に輝き、第36回春季創画展【東京店】に出品

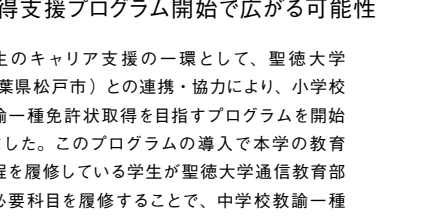
個性ゆたかに現代日本画の創造に精進する第36回春季創画展で、日本画コース卒業生の柿崎彩美さんの「ユメミルワニ」（写真）が春季展賞を受賞。あわせて大学院修了生の設楽雅美さんの「待ちかねて」と白崎彩子さんの「rain voice No.25」が入選しました。作品は、日本橋高島屋にて2月24日～3月1日に開催された「第36回春季創画展【東京展】」に出品されました。



## 26

### 漫画家として活躍！週刊少年マガジン好評連載中の「課長令嬢」が単行本に

個性ゆたかに現代日本画の創造に精進する第36回春季創画展で、日本画コース卒業生の柿崎彩美さんの「ユメミルワニ」（写真）が春季展賞を受賞。あわせて大学院修了生の設楽雅美さんの「待ちかねて」と白崎彩子さんの「rain voice No.25」が入選しました。作品は、日本橋高島屋にて2月24日～3月1日に開催された「第36回春季創画展【東京展】」に出品されました。 WEB: http://kc.kodansha.co.jp/content/top.php/KA0000441



## 31

### 中島詢子さん、第15回日本の美術〜全国選抜作家展〜に出品

オイルパステルでイラストを描く、チョークアーティストとして活躍する洋画コース卒業生の中島詢子さんが、上野の森美術館にて開催された「第15回日本の美術〜全国選抜作家展〜」に出品しました。作品は、ぬくもりと素朴さ、優しい雰囲気特徴です。 主催：日本の美術展実行委員会 WEB: http://www.bungei.co.jp/

TOPICS

TOPICS

## 29

### 「国際ソロプチミスト山形女子学生奨学金」将来を嘱望されての受賞です

大学院洋画領域の山本萌美さんが「国際ソロプチミスト山形 女子学生奨学金」に選ばれました。この奨学金は、将来、社会に貢献する人材を育成することを目的とし、毎年、学業・人物ともに優秀な女子学生に贈られるものです。4月20日に山形市民会館にて贈呈式が行われます。 WEB: http://www.sia-yamagata.com/

### 高速バス仙台～上山線の大学経由便1便増便で通学がますます便利に軽快に

山交バスと宮城交通によって運行している高速バス「仙台～上山線」は、大学前のバス停「芸術工科大学」を経由して運行しています。乗り換え不要で仙台駅前から本学まで復讐でき、多くの学生が通学に利用しています。その上山～仙台線の高速バスが2010年4月1日から増便し1日8便の運行となり、授業との運動がよりスムーズになりました。

## 31

### 中島詢子さん、第15回日本の美術〜全国選抜作家展〜に出品

オイルパステルでイラストを描く、チョークアーティストとして活躍する洋画コース卒業生の中島詢子さんが、上野の森美術館にて開催された「第15回日本の美術〜全国選抜作家展〜」に出品しました。作品は、ぬくもりと素朴さ、優しい雰囲気特徴です。 主催：日本の美術展実行委員会 WEB: http://www.bungei.co.jp/



## OPEN GALLERY

## SHORT REVIEW WEB

あなたの作品、寸評室



## ●出品者

伏見元伯 Fushimi Motonori (左) / 山形市在住。  
絵を書く奥様の勧めをきっかけに公開講座に申し込み、現在は共にスケッチをする有意義な時間を過ごしている。「以前は妻の運転手だったが、今はスケッチを版画に活かせるのでいいですね」と語っている。

## ●寸評

中村桂子 Nakamura Keiko (右) / 芸術学部美術科版画コース准教授。1990年東京造形大学造形学部美術学科I類絵画版表現コース卒業、翌年同大学造形学部美術学科研究生修了。日本版画協会展山口源新人賞、五島記念文化賞美術新人賞などを受賞している。

自作の版画で30年以上も年賀状を作っているという伏見さん。我流の版画を改めてしっかりと習ってみよう公開講座を受講されました。今回は、受講後も手を加え続けた作品について講師の中村先生に寸評していただきました。

伏見 描いたのは、毎年登山している朝日連峰の以東岳にある最初の吊り橋です。妻と登山した時の休憩場所で、一息つきながらスケッチしたものを基に制作しました。  
中村 最初のもの比べると、どんどん良くなってきていますね。木漏れ日が心地よい空気感や、ほっとしている気持ちが伝わるような、一枚の絵になってきていると思います。  
伏見 先生に「色を重ねなさい」と言われたことを思い出して、どうしたらあの風景に近づけるか探りながら色を置いてみました。  
中村 この部分にはこの色、と決めてしまうと風景として存在する一体感がなくなってしまいますからね。伏見さんの作品は、緑色に黄色をふんわりと重ねることで絵の具にはない木々の緑色が描かれていますし、中心の吊り橋が映えて見えます。岩の色も、黒っぽいだけではなく周囲の緑が映りこんでいて、木陰の中にある岩の表情がでています。  
伏見 真ん中のブナの木も、木肌に平刀をいれてよりブナらしくなったと思うのですが、どうでしょうか。

中村 本当ですね! 吊り橋との質感の違いが出ていてとてもいいです。

伏見 彫刻刀の使い方もなんとなくやっていたので、改めて教えてもらえて良かったです。紙を湿すやり方も初めて知りましたし。

中村 紙が乾いていると色がボソボソとしてしまうんです。版木を湿すことで絵の具が版木の上に乗る、染み込んでしまわないということも講座でお話しましたね。

伏見 そういった準備で色の出方が変わるというのは驚きでした。彫っている時と、それを刷り出した時のイメージが違うのが面白いです。

中村 伏見さんは、ご自分のイメージを表現しようとするから工夫が活きてくるんですよ。変に上手くやろうとするより、ずっと上達の近道だと思いますよ。あとは、対象の手前と奥とで絵の具と水の混ぜ方を変えたり、彫り跡の大胆な所と細かい所の差をつけることで、もっと強い絵になると思います。

伏見 確かにそうですね。ひとりで行っているとなかなか分からないこともありますし、これからも工夫してみます。ありがとうございます。  
中村 版画は印刷では表現できない手触りや、同じものでありながら違う表現ができるという良さがあります。登った山々の、季節の画集を作られてはいかがですか? これからも是非続けてください。

中村 版画は印刷では表現できない手触りや、同じものでありながら違う表現ができるという良さがあります。登った山々の、季節の画集を作られてはいかがですか? これからも是非続けてください。

## WELCOME TO TUAD

開かれた芸工大への扉



## こども芸術大学

「あしあと広場(全5回)」

こども芸術大学には、2、3歳の子どもとお母さんが様々な体験の中で「出会い」を楽しむ5回シリーズのワークショップ「あしあと広場」を開催します。絵の具や土粘土などの素材との出会い、はじめてのお友達との出会い、そして笑顔がややく楽しい時間との出会い。子育て中の今だからこそ親子で残せる「あしあと」がここにはあります。初めての方でも、お気軽にご参加ください。

「あしあと広場: 出会いを楽しむワークショップ」(全5回)

1回目 5月27日(木): 色と出会い  
2回目 6月10日(木): 形と出会い  
3回目 6月28日(月): 自然と出会い  
4回目 7月10日(土): 身体と出会い  
5回目 7月22日(木): 友達と出会い

時間: 10:30 - 11:30

対象: 平成18年4月2日 - 平成20年4月1日生まれの親子

定員: 25組

費用: 3,300円(5回分のおやつ、材料、保険代) + 3,000円(登録料/入学願書提出時の手続き金3,000円として充当できます)。

お申込み: 5月21日(金)までに、電話かメール、申込みフォームにてお申込みください。

こども芸術大学 TEL 023-627-2280

※お申込み多数の場合は抽選とさせていただきます。

※「あしあと広場」のお申込みは右のQRコードで、携帯電話からも可能です。



## CLICK HERE!

WEBでさらにg\*gツウになろう

本誌g\*gでご覧いただいた内容は、WEBでもご紹介しています。さらに、WEBならではのお楽しみもいっぱい。本誌ではご紹介しきれなかった作品やエピソードなどをプラスα編集。ご期待ください。また、読者のみなさんにご参加いただくコーナーへのお申し込み・お問い合わせ窓口にもなっています。下記のWEBサイトをクリック&チェックしてみてください。

WEB: <http://gs.tuad.ac.jp/gg/>

<http://gs.tuad.ac.jp/gg/>



## OPEN GALLERY

## EVENT SCHEDULE WEB

## 4/1-7/31

## デザセン2010、登録受付開始

「明日の社会を見つめ、明日の社会を創造する」をテーマに高校生の視点で、社会や暮らしのなかから問題・課題を見つけ、その解決方法を分かりやすく提案する「デザセン」。同じ高校に通う3名が1チームとなり、提案内容をA2サイズ2枚のパネルにまとめて問題解決力、チーム力を競います。「デザセン2010 第17回全国高等学校デザイン選手権大会応募登録受付開始」

応募登録期間：4月1日(木)～7月31日(土)  
作品受付期間：7月1日(木)～9月1日(水)  
WEB：<http://www.tuad.ac.jp/hiddenchamp/>



## 4/9-25

## 新たな可能性。洋画・版画の新4年生展

山形市内を一望でき自然豊かな散策路を保有する悠創の丘「悠創館」にて、本学美術科洋画コースと版画コースの新4年生が作品展を開催します。

## 「洋画・版画 新4年生展」

会期：4月9日(金)～25日(日) 9:00～17:00(最終日15:00まで)  
会場：悠創の丘「悠創館」展示室1・2  
入場料：無料

## 4/10-6/13

## 幻想的な存在感。岡田真宏の作品に出会う

岡田真宏美術科教授が個展「岡田真宏展」を開催します。また、「カイガのカイキ」展にも出品します。「カイガのカイキ」

会期：4月10日(土)～6月13日(日) (月曜休館/5月3日は開館、5月6日は休館) 10:00～18:00(入場は17:30まで)  
会場：足利市立美術館(栃木県足利市)  
観覧料：一般600円/大学・高校生400円/中学生以下無料  
WEB：<http://www.watv.ne.jp/~ashi-bi/>  
「岡田真宏展」  
会期：4月20日(火)～26日(月) 会期中無休  
10:00～18:30(土日は11:00～17:00)  
会場：石川画廊(東京都中央区銀座)  
WEB：<http://www.gallery-ishikawa.com/>

## 4/22-5/4

## ロシア・アヴァンギャルドを深く知る

山形美術館で行われている「ロシアの夢1917-1937」展は、ロシア・アヴァンギャルドに関する展覧会です。この企画では、「アヴァンギャルドとは何か？」を考察する機会とし、展覧会をより深く読み解くために、幅広い年齢層を対象にレクチャーと体験ワークショップを開催します。ワークショップの参加ご希望の方は、下記へお申込みください。  
申込み：山形美術館 〒990-0046 山形市大手町1-63 TEL 023-622-3090 FAX 023-622-3145  
E-mail [info@yamagata-art-museum.or.jp](mailto:info@yamagata-art-museum.or.jp)

## 『記念講演会「ロシア・アヴァンギャルド建築“希望の空間”』』

日時：4月22日(木) 17:00～18:20  
会場：東北芸術工科大学  
定員：250名(当日先着順/聴講無料)  
講師：八束はじめ芝浦工業大学教授  
「ミュージアム・スクール」  
(1時間目) 中村唯史山形大学准教授「ロシア文学と絵画」  
(2時間目) 近藤一弥教授「ロシア映画とグラフィック・デザイン」  
日時：4月29日(木) 13:30～16:30  
会場：山形美術館3階ホール  
定員：80名(当日先着順/本展半券が必要)  
「モビールをつくらう！造形のワークショップ」  
日時：5月1日(土) 13:00～15:00  
会場：山形美術館3階ホール  
定員：20名(5歳以上/中学生以下無料/本展半券が必要)  
講師：坂東慶一准教授/和田菜穂子准教授  
「からだと遊ぼう！身体表現のワークショップ」  
(1時間目) 「親子のためのワークショップ」  
定員：10組  
(2時間目) 「こどものためのワークショップ」  
定員：20名  
日時：5月4日(火) 13:30～16:00  
会場：山形美術館3階ホール  
対象：小学1～6年生くらいの親子(お子様の参加は無料/保護者の方は本展半券必要)  
講師：伊藤千枝 珍しいキノコ舞踊団主宰  
持ち物・服装：タオルと飲み物、動きやすい服装



## 4/24-25

## まだまだ知らない古代の東北。

東北地方の環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究の経過報告として、公開シンポジウムを開催いたします。「公開シンポジウム「東北古代の変動～火山灰と鉄～」」  
日時：4月24日(土)13:00～18:00/4月25日(日)9:30～15:15  
会場：本館407教室(予定)  
講師：安齋正人教授/北野博司准教授/福田正宏講師/ほか学外研究員多数  
受講料：一般1,000円/高校生以下無料/本学学生・教職員無料  
申込み：東北文化研究センター TEL 023-627-2168  
東北文化研究センターORC事業として開催します。

## 4/24

## 人と環境にやさしいアイデア最新型

一次審査で選出された13名に依る各自のアイデアの公開プレゼンテーションと表彰式、交流会などを開催します。今年はどんな新しい提案が生まれるのか、ご期待ください。「サステナブル デザイン アイデア コンペ2009 二次審査会」  
日時：4月24日(土) 10:00～17:00  
会場：東北芸術工科大学ラウンジ(二次審査通過作品展示)  
4月24日(土)～5月8日(土) 9:00～17:30(入場無料)

## 5/7

## DE DE MOUSE のトークイベント開催！

「ミュージシャンとのコラボレーション」をテーマに、エレクトロ・ミュージックの異端児、DE DE MOUSE を講師に迎えて特別講義を開催。彼のアートワークやミュージックビデオを手掛ける映像学科岩井天志准教授とのトークのほか、ミニライブ、ミュージックビデオ上映など刺激的な内容です。「DE DE MOUSE 特別講義@東北芸術工科大学 トークショー&ライブイベント」  
日時：5月7日(金) 18:00～19:20予定(17:30～開場)  
会場：本館201講義室  
定員：350名  
入場料：無料  
申込み：本学学生は申し込み不要/一般の方は大学HPからお申込みが必要 <http://www.tuad.ac.jp/>



## 5/15

## 就職超氷河期に学ぶ、社会が求める人材とは

講師に(株)山形銀行人事部長丹野晴彦氏を迎え、「実社会で求められる能力とは～芸術・デザインをどう活かすか?～」というテーマで、昨今の超就職氷河期と呼ばれる厳しい状況の中で、社会が求めている人材、本学の学生に期待する人材などについてご講演をいただきます。「平成22年度「東北芸術工科大学保護者会」」  
日時：5月15日(土) 13:30～  
会場：本館講義室

## 5/17

## 夕暮れに水上能舞台で楽しむ「薪能」

東アジアに生きる日本人としての社会的・文化的アイデンティティを確認する機会として、幽玄な薪能の世界をお気軽にお楽しみください。「東北芸術工科大学伝統館薪能」  
日時：5月17日(月) 17:30～19:30  
会場：伝統館  
演目：(能) 葵上 観世鏡之丞(狂言) 昆布売 山本東次郎  
入場協力金：一般2,500円/高校生以下無料/本学学生・教職員無料  
申込み：東北文化研究センター TEL 023-627-2168

## 5/30

## 見て触れて感じて、芸工大のすべて

各学科・コースによる模擬授業やワークショップ、在学生の授業課題や作品展示、アトリエや工房、演習室の公開、学生や先生との交流など、さまざまな企画を用意してみなさんの参加をお待ちしています。事前予約不要、参加無料です。「オープンキャンパス」  
日時：5月30日(日) 10:30～16:00  
会場：東北芸術工科大学キャンパス



## 6/12-7/3

## 静物画で油彩の基本を学ぶ

油彩画を始めようと思う方や、始めて間もない方を対象とした静物を描く講座です。「油彩初級編(静物画を描く)」(全4回)  
会期：6月12日(土)～7月3日(土) 9:00～12:00  
対象：初心者から経験者 15名  
講師：青山ひろゆき講師/大学院生  
受講料：12,000円(油彩用具をお持ちでない方は、ご相談ください。)  
申込締切：5月24日(月)

## 6/26-7/24

## 油彩実技講座。人物で豊かな表現を

学生をモデルに油彩で人物着衣を制作します。観察と同時にマチエール(画肌)や色彩も大切にすることで、より自分らしい豊かな表現を模索・展開します。すでに油彩を何度か経験し、さらにレベルアップされたい方対象です。「油彩実技講座「人物(コスチューム)を描く」」(全5回)  
会期：6月26日(土)～7月24日(土) 13:30～16:30  
講師：木原正徳教授/大学院生  
対象：一般 20名  
受講料：20,000円  
申込締切：6月3日(木)

## 8/1-3

## はじめての和太鼓講座、開催

和太鼓演奏の初心者向けの講座です。見て、聞いて、打って、感じることで和太鼓の音や動きの感性的な体験を目指します。「はじめての和太鼓」(全3回)  
日時：8月1日(日)～3日(火) 10:30～12:00  
対象：小学生以上の初心者 15名  
講師：川口幾太郎教授/郷津香乃(和太鼓「太恵」)  
受講料：一般6,000円/高校生以下4,000円(3日間分/保険料は別途徴収)  
申込締切：7月8日(木)

## 8/1

## 和太鼓による感性の導き

幼稚園、小学校、中学校、高校あるいは地域などで和太鼓の指導をされている方を対象に、「感性の和太鼓」の講義と実践を行います。「感性の和太鼓(指導者向け)」(全1回)  
日時：8月1日(日) 14:00～17:00  
対象：和太鼓指導に携わっている一般 15名  
講師：川口幾太郎教授/郷津香乃(和太鼓「太恵」)  
受講料：6,000円(保険料は別途徴収)  
申込締切：7月8日(木)

## 9/4-18

## 手捏ねの魅力感じる「楽焼」体験

楽家初代長次郎が創始したと云われている「楽焼」を現代風にアレンジして3日間で作成から焼成まで行います。初心者から経験者まで楽しめます。「陶芸講座(楽焼き体験)」(全3回)  
会期：9月4日(土)～18日(土) 14:00～17:00  
会場：新実習棟A2階ろくろ成形室  
対象：初心者から経験者まで 12名  
講師：佐々木理一講師/星野友里副手  
受講料：一般10,000円  
申込締切：8月2日(月)

※企画によっては、日程や開催時間に変更になる場合があります。ご了承ください。

在学生、卒業生の皆さんへ  
東北芸術工科大学の広報誌「g\*g」では、イベントなどの告知情報をお待ちしております。